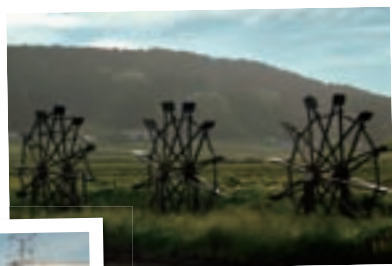




THE SENDAI BANK
Disclosure

PRESSO

仙台銀行 2011年 ディスクロージャー誌 別冊 [エス・プレzzo]



宮城とともに

仙台銀行は

「ふるさと宮城」の復興に向けて
皆さまとともに歩んでまいります。

President Message

頭取メッセージ

仙台銀行 取締役頭取

三井 精一



仙台銀行は、 宮城県の震災復興支援に全力で取り組み、 県民の皆さまとともに歩んでまいります。

東日本大震災後の皆さま方からの 心温まるご支援に心より感謝いたします

3月11日の東日本大震災により犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被害を受けられた地域と皆さま方に謹んでお見舞い申し上げます。

今回の大震災は、巨大地震、大津波、原発事故そして風評被害が重なる未曾有の広域大災害となり、多くの尊い命を奪い、また、私たちの生活と産業基盤の全般にも壊滅的な被害を与えました。突然に負った余りにも深すぎる心の傷は、容易に癒える状況にございません。

当行においても、多数の株主様・お取引様が被災されたほか、沿岸地区の5店舗が大津波により全壊し、3店舗が浸水するなど、甚大な被害を受けるに至りました。大震災直後は、大規模停電やガソリン不足等の影響も加わり、71店舗のうち最多で21店舗が一時的に営業休止を余儀なくされました。

しかしながら、大震災直後から、県民の皆さま方をはじめ、多方面から迅速かつ細やかなご配慮とご支援をいただき、それを支えに、役職員も全力で復旧活動に取り組んだ結果、順次営業を再開することができました。皆さま方のご配慮とご支援に対して、改めて心より御礼を申し上げます。

なお、当行の平成23年3月期は、今回の大震災の影響等もあり、創業以来最大の68億円の赤字決算となりました。また、誠に遺憾ながら、年間配当も、創業期を除いて初の無配とさせていただきますことになりました。大震災の影響とはいえ、関係する皆さま方に多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

きらやか銀行とも連携し 震災復興に万全の体制で取り組みます

宮城県は、東日本大震災によって壊滅的な被害を受けましたが、誇れる故郷を再び自分の手で取り戻すため、復興に向けて立ち上がろうとする機運が着実に芽生えてきております。

当行は、昭和26年の創業以来、宮城県の地域金融機関として県民の皆さま方に支えられて、ここまで成長してまいりました。大震災によって宮城県が極めて深刻な状況に置かれているなか、当行の企業使命は、地域金融機関として震災復興に万全の体制で取り組み、県民の皆さまと将来への確かな希望を共有し、ともに歩んでいくことにあると確信しております。

震災復興支援にあたっては、金融機能強化法に基づく公的資金を活用させていただくほか、国や宮城県、市町村、政府系金融機関等とも多面的に連携して、中長期的かつ着実に取り組んでまいりの方針でございます。

また、本年10月に予定しておりました、きらやか銀行との経営統合についても、大震災の影響を受けて一旦延期いたしました。統合に向けた両行協議については既に5月から再開しており、今後、被災企業先様等への支援に向けて、両行の連携策を具体化してまいり所存でございます。

本冊子では、当行役職員が、被災地の地域金融機関として、大震災後の復旧作業にどのように奮闘し、地域の皆さまと歩んできたのかを多くの写真も含めて記録いたしました。

ぜひ、本冊子をご覧くださいととも、引き続き、当行及び宮城県、そして被災地各地にご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

東日本大震災発生と復旧・復興へ向けた当行のあゆみ (平成23年3月11日～6月30日)

平成23年 3月11日(金)	○14時46分、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の日本観測史上最大の地震が発生。 その後、東北・関東沿岸一帯に大津波が襲来する。 ○当行では、大津波により沿岸部5店舗(気仙沼支店、歌津支店、志津川支店、雄勝支店、女川支店)が全壊し、多数の店舗やATM等においても浸水・損壊被害が発生した。	
12日(土) 13日(日)	○新聞報道等で大震災による甚大な被害状況が明らかになる。 県内全域が停電となり、ガス・水道・通信・交通機関等も壊滅的な被害を受け、県民生活が大混乱となる。 ○当行は、大震災の翌日から、仙台市を中心に30店舗で休日営業を行い、窓口で一人あたり1日10万円限度の預金払戻しに応じる。 ○当行ホームページ、新聞、ラジオ、テレビを通じて営業情報を発信する。	
14日(月)	○全店71店舗のうち、59店舗(一部再開を含む)で営業を再開。 津波被災地に近い営業店12店舗は窓口時間を17時まで延長し、預金払戻し等に応じる(3月18日まで)。 ○震災相談フリーダイヤル(預金、事業融資、住宅・個人ローン、事故受付)を設置し、土・日・祝日を含めて電話相談受付を開始する。 ○震災被災者への預金通帳・キャッシュカード等の再発行手数料の無料化を開始する。	
15日(火)	○大津波で全壊した沿岸部の店舗等で、職員によるがれき撤去作業等を開始する。 ○地震被害で営業休止中であった大河原支店が、近隣商業施設内に仮設窓口を設置し、預金払戻し業務を再開する。	
19日(土)～ 21日(月・祝)	○津波被災地に近い6店舗で休日営業を行い、窓口で一人あたり1日10万円限度の預金払戻し等に応じる。	
22日(火)	○震災後の極端なガソリン不足や交通機関の混乱も加わり、営業休止店舗が21店舗まで一時的に拡大。 その後、ガソリン事情の回復等により順次営業を再開する。	
23日(水)	○大津波で浸水した石巻支店が、職員による店内の海水・汚泥の除去、清掃作業を進め、震災後12日目で、同店内の仮設窓口での預金払戻し業務を再開する。	
24日(木)	○大津波で当行店舗が全壊した気仙沼市及び南三陸町志津川地区、歌津地区において、当行職員が移動バスで避難所等を訪問して預金払戻し業務を再開する。	
26日(土) 27日(日)	○津波被災地に近い4店舗で休日営業を行い、窓口で一人あたり1日10万円限度の預金払戻し等に応じる。	
29日(火)	○被災者を対象とした震災復興資金融資「サポートみやぎ・東日本大震災災害復興資金」及び震災復興支援ローン(リフォーム、マイカー等)の取扱いを開始する。	
30日(水) 31日(木)	○大津波で当行店舗が全壊した女川町及び石巻市雄勝地区において、当行職員が移動バスで避難所等を訪問して預金払戻し業務を再開する。 ○石巻・気仙沼等のコミュニティFMを通じて営業情報を発信する。	
4月2日(土) 3日(日)	○本店で休日営業を行い、預金払戻し等に応じる。	
6日(水)	○全国銀行協会を通じて、宮城県外に二次避難された預金者に対して、全国各地の銀行窓口で当行預金の払戻しが可能になる。	
7日(木)	○気仙沼市内の当行店舗・ATMが全壊したことから、気仙沼信用金庫ATMで当行口座に入金するさいの手数料返戻を開始する(5月31日まで)。	
11日(月)	○震災復興支援に向けた資本基盤強化のため、金融機能強化法に基づく国の資本参加の検討開始を公表する。 ○震災復興支援を最優先するため、きらやか銀行と経営統合延期を合意・公表する。	
20日(水)	○大津波で浸水した多賀城支店・石巻支店・中里支店が、現店舗で通常営業を再開する。	
27日(水)	○大津波で浸水した塩釜支店が、仮設店舗に移転して通常営業を再開する。	
5月2日(月)	○震災により営業休止していた沿岸部等の5店舗(歌津支店、志津川支店、雄勝支店、女川支店、宮城野支店)が近隣店舗内に移転して通常営業を再開する。 ○4月7日深夜の大規模余震で被害が拡大した高清水出張所が営業を休止する。	
13日(金)	○気仙沼市内に新たな店舗外ATM「ダイシン気仙沼出張所」を設置する。	
18日(水)	○きらやか銀行との経営統合委員会を震災後初めて当行で再開する。	
20日(金)	○気仙沼支店が同市内で移転のうえ、通常営業を再開する。 ※全営業休止店舗は高清水出張所の1店舗のみ	
6月10日(金)	○きらやか銀行と、被災地域全体の復興支援を連携して取り組む目的で「連携に係る契約書」を締結する。	
12日(日) 19日(日)	○沿岸部被災地の15店舗において、被災者を対象にした「住宅ローン日曜相談会」を開催する。	
29日(水)	○地元中小企業への復興支援策や円滑な資金供給に取り組む専門部署として「地元企業応援部」を創設する。	

写真で見る当行の東日本大震災復興への取り組み



①女川支店
三陸沿岸の地域には、高さ10m以上の大津波が押し寄せ、町全体が流出する壊滅的な被害となった。当行支店も建物外枠のみを残し、全てが流出・全壊した。



④がれきが散乱する店内で重要物の回収等にあたる志津川支店職員

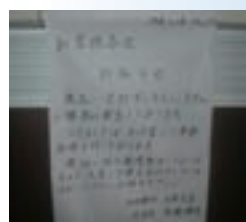


⑤歌津支店 ⑥志津川支店



③津波が引いた後、店内を手分けて整理する気仙沼支店職員

②移動バスでの気仙沼支店仮設窓口(気仙沼商工会議所)



①大規模停電でオンラインが不通のなか、手作業で預金払戻しを行う(石巻支店)



⑧中里支店内に移転した雄勝支店



⑨プレハブ建物での気仙沼支店仮設窓口(気仙沼商工会議所駐車場)

⑦新設した店舗外ATM「ダイシン気仙沼出張所」



⑥津谷支店内に移転した歌津支店

平成23年 3月11日(金)～

震災直後

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、沿岸の5店舗が大津波で全壊したほか、多数の店舗や店舗外ATM等において浸水・損壊が発生しました。

平成23年 3月15日(火)～

職員による懸命な復旧作業

大津波の被害を受けて全壊・浸水した店舗では、ライフラインが復旧しないなか、職員が一日も早い営業再開を目指して、がれき撤去等の復旧作業を行いました。

平成23年 3月23日(水)～

仮設窓口・移動バスによるお客さま対応

沿岸部地域では、当行職員が移動バスによる避難所への訪問やプレハブ設置等により、被災されたお客さまの預金払戻しや相談に応じました。

平成23年 4月20日(水)～

店舗移転等による営業再開

大津波により浸水した店舗では、現店舗や仮設店舗で順次営業を再開しました。また、建物が全壊した5店舗では、近隣店舗内へ移転のうえ営業を再開しました。



⑩震災直後の気仙沼支店内部 ⑪雄勝支店のみを残して周囲の建物は全て流出



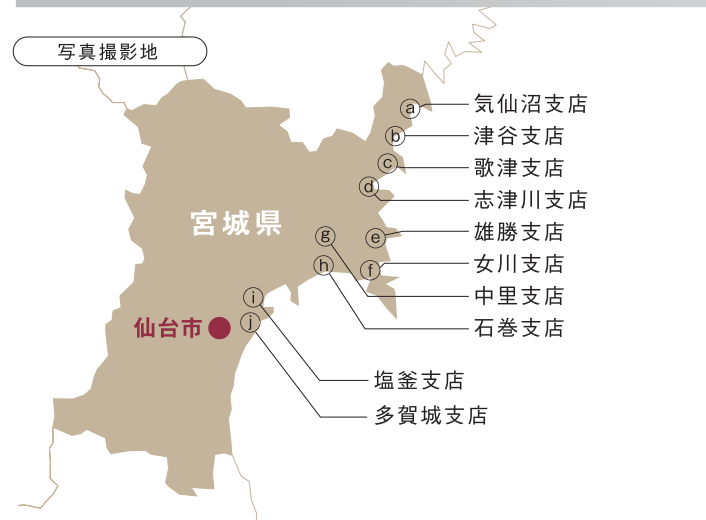
⑫被害がなかった支店2階へ重要書類を移動(多賀城支店) ⑬津波で浸水した書類や備品を撤去(多賀城支店)



⑭避難所での雄勝支店仮設窓口(石巻市立大須小学校) ⑮避難所での女川支店仮設窓口(女川町総合体育館)



⑯仮設店舗で営業を再開した塩釜支店 ⑰塩釜支店の仮設店舗窓口



⑱津波で浸水した伝票を1枚ずつ広げて乾かす(多賀城支店) ⑲津波に含まれた重油が建物内に残る多賀城支店内部。津波により店内の全てが浸水し、端末機等は全て使用不能となる



店舗を移転のうえ営業再開した気仙沼支店と職員

「ふるさと宮城」の復興にかける思い 仙台銀行気仙沼支店長 庄司 衛

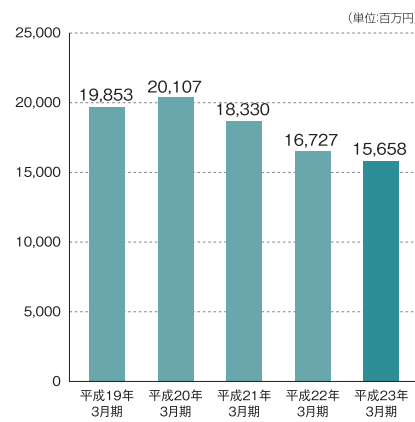
過去に経験したことのない大きな揺れと直後の巨大津波に多くの尊い人命が奪われ、美しい街並もがれきの山と化しました。当気仙沼支店の再開も2ヶ月を要し、その間移動バスやプレハブ内での一部営業を余儀なくされ、お客さまには大変なご不便をおかけいたしました。気仙沼市は、遠洋マグロやカツオ、フカひれ等の新鮮な魚類、良質な水産加工品、冷凍・冷蔵やその運搬、造船・修理に至るまで、高い技術力と誠実さを誇りとする企業と人材が整った街です。地域経済の担い手は中小企業であり、志(こ

ころざし)の高い経営者とそこに働く勤勉な従業員がその実践者なのです。大震災でその多くの企業が設備や原材料等を失ったことは経営の失敗ではありません。必ず立ち上がることができます。復興の現場には国民の英知の結集と物的・金銭的支援が不可欠であります。被災地の現場はますます忙しくなりますが、当行の企業理念である地域密着を實踐し、地域のお客さまとともに「ふるさと宮城」の復興に向け、精一杯汗を流していくことを当行全職員で決意しております。

当行の業績について(個別)

経常収益

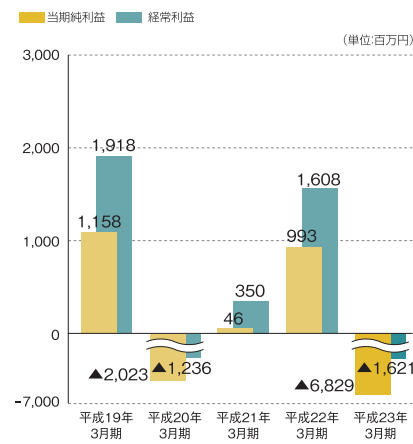
経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことなどから、156億58百万円(前年同期比10億69百万円減)となりました。



経常利益・当期純利益

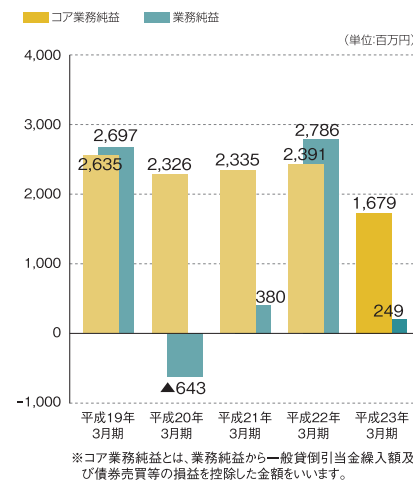
経常利益は、株式市場の低迷等の影響により、保有有価証券の一部について24億円の減損処理を実施したことなどから、16億21百万円の損失(前年同期比32億29百万円減)となりました。

当期純利益は、東日本大震災に係る特別損失31億円を計上したことなどから、68億29百万円の損失(前年同期比78億22百万円減)となりました。



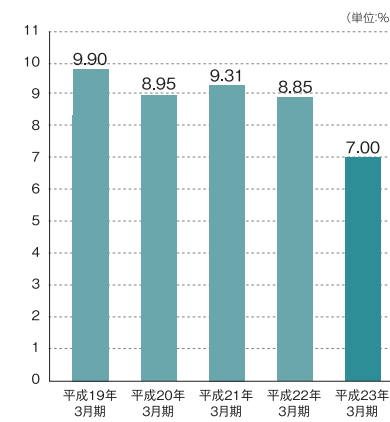
コア業務純益・業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したことや金融派生商品損益(金利仕組みローン等)の改善幅が縮小したことなどから、16億79百万円(前年同期比7億11百万円減)となりました。



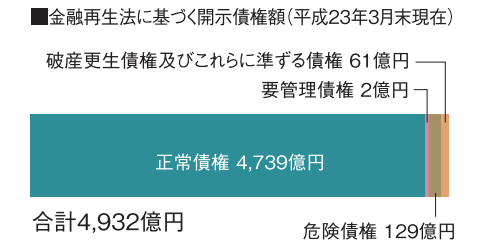
単体自己資本比率(国内基準)

単体自己資本比率(国内基準)は、前年同月比1.85ポイント低下し、7.00%となりました。



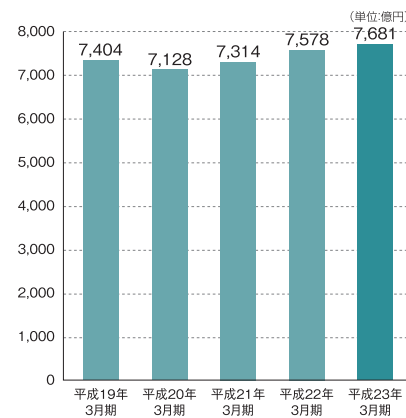
金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権(貸出金・支払承諾見返等)のうち、正常債権以外の債権額は、193億1百万円(前年同月比23億85百万円減)となりました。



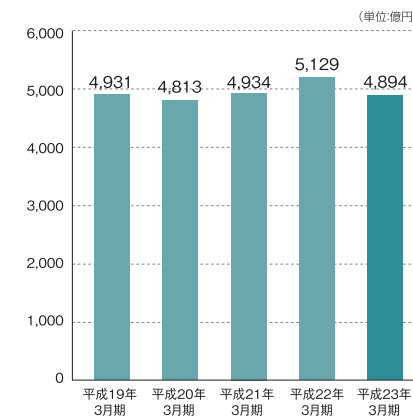
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、個人預金や法人預金が増加したことなどから、7,681億62百万円(前年同月比103億42百万円増)となりました。



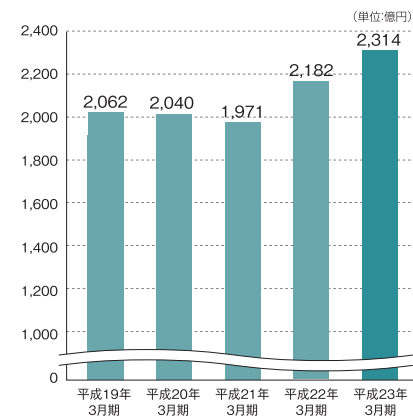
貸出金残高

貸出金残高は、中小企業向け貸出が増加したものの、地方公共団体向け貸出や大企業向けの政策融資が減少したことなどから、4,894億44百万円(前年同月比235億13百万円減)となりました。



有価証券残高

有価証券残高は、地方債や社債が増加したことなどから、2,314億97百万円(前年同月比132億34百万円増)となりました。



格付

当行では、第三者による評価をととして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しております。

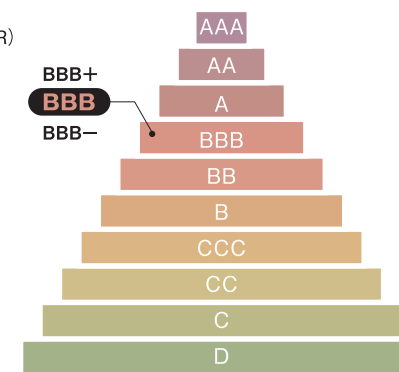
格付機関
株式会社日本格付研究所(JCR)

格付種類
長期優先債務格付

格付
#BBB(#トリプルBフラット)

見通し
ネガティブ

(平成23年6月末現在)



金融再生法開示債権の保全内訳

	債権額(A)	保全額(B)		保全率(B/A)
		担保・保証等	貸倒引当金	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,128	6,128	4,450	100.00%
危険債権	12,905	12,560	1,402	97.32%
要管理債権	268	172	139	64.21%
正常債権	473,951	264,469	3,700	55.80%
合計	493,253	283,330	6,813	57.44%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

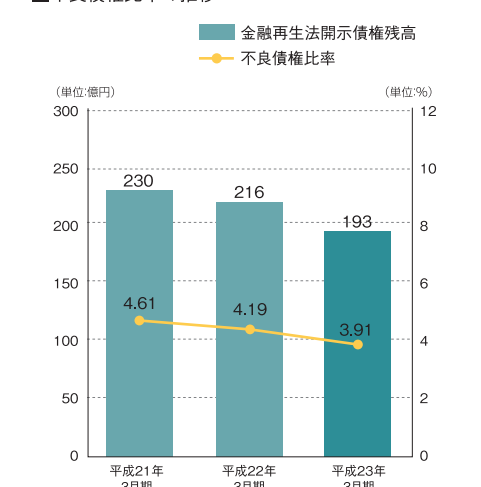
要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移



好品質計画[®]

仙台銀行の概要 (平成23年3月末現在)

創業	昭和26年7月5日
資本金	74億85百万円
本店	仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
店舗数	71カ店(宮城県内70カ店、東京1カ店)
行員数	791人(男子553人、女子238人)
預金・譲渡性預金	7,681億円
貸出金	4,894億円

S-PRESSO

[S]	SENDAI BANK
[press]	内容の濃い情報発信
[O(ゼロ)]	原点を忘れない

仙台銀行は、設立の原点である「宮城県の金融円滑化への貢献」が企業使命です。仙台銀行の業績やトピックスを2011年 ディスクロージャー誌 別冊「Spresso(エス・プレッソ)」に分かりやすく“濃縮”しましたので、どうぞご覧ください。

※2011年3月期の詳細な財務データにつきましては、「2011年 ディスクロージャー誌 本編」をご覧ください。

株式会社仙台銀行 企画部
〒980-8656 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
TEL.022-225-8241(代)
平成23年7月発行

ホームページ <http://www.sendaibank.co.jp/>